

優秀賞



## farmscape

都市における農業啓発施設の提案

小松崎 博敏 (こまつざき ひろとし)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



今、日本の農業は、危機的状況に直面している。それは、農業が長い歴史ある文化であり、重要な自然環境の保全を担っているにも関わらず、営農者が著しく減少しているためである。このような中、農業を体験的に捉える場は少なく、農業に対する知識や役割を知る人々の乏しさが増々衰退に拍車をかけていると考える。そこで、本計画では都市の中で僅かに残る農地を敷地とし、我が国の農業のあり方・意義を見直すことを目的とした、農業の啓発拠点の設計を行う。自然というものに着目し、外部から空間をつくっていく。あぜ道を活用した細長い空間。細長さ故、開口による外部との連続性は強くなり、生活の場としての開放が得られ、学ぶ場所としてもより多様な活動を誘発する空間となるよう計画した。



**[講評]** 日本の農業の現実を直視し、時間を掛け練り上げた問題意識に説得力がある。都市だからこそ可能な農業の体験・啓発施設として、あぜ道上部に建築をつくるアイデアは面白い。狭いだけに内部の空間性や動線の処理に制約があり、建築として消化しきれていない面もあるが、この提案の妙味は格子状の建築が創り出す新たな都市空間にある。——建築が切り取る、建築を透かす、ピロティが人々を誘う、マスごとに高さの違う水田の見

え方が変わる…。そのかわり日影により生育にムラが出るだろう。しかし屋上農園を含め、条件の違いがどう成長に影響するかを都市農園研究に役立たせる実験素材と位置づければ良いのではないか。農村では大気に拡散され見えない水の揺らぎや反射が、刻々と二重三重に光と陰影のドラマを壁面に映し出す。その情景にも実現を期待したくなるほどの魅力を感じる。

(審査員：柳瀬寛夫)